

合理的配慮の事例

羽曳野市リーディングチーム

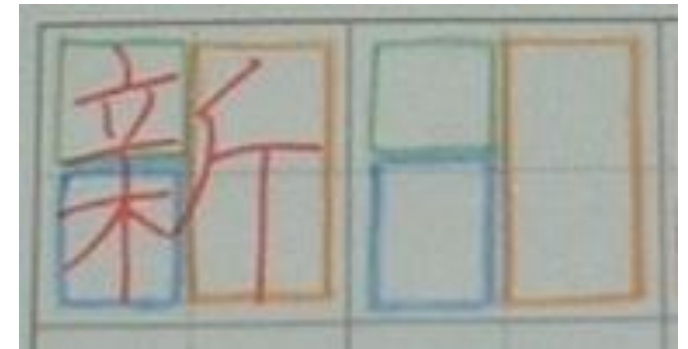
漢字（バランスよく書くために）

【児童の状況】

- ① 手指の微細運動が困難なため、小さなマスに漢字を書くことが難しい。
- ② 空間認知が弱く、偏やつくりをバランスよく書くことが難しい。

【合理的配慮】

- ① 大きなマスのノートを用意し、書きやすくする。
- ② 偏やつくりなどの各パーツを書くための枠を書き、バランスよく書いて練習できるようにする。



本が読みにくい児童の補助具として

【児童の状況】

- ・言葉のまとまりが分かりにくく、流暢に読めない

【合理的配慮】

- ・リーディングストラッカーの使用
- ・教科書や、読書の際に一行ごとにリーディングストラッカーを当てて読む。
- ・読みたい行だけに視点を集中できる。



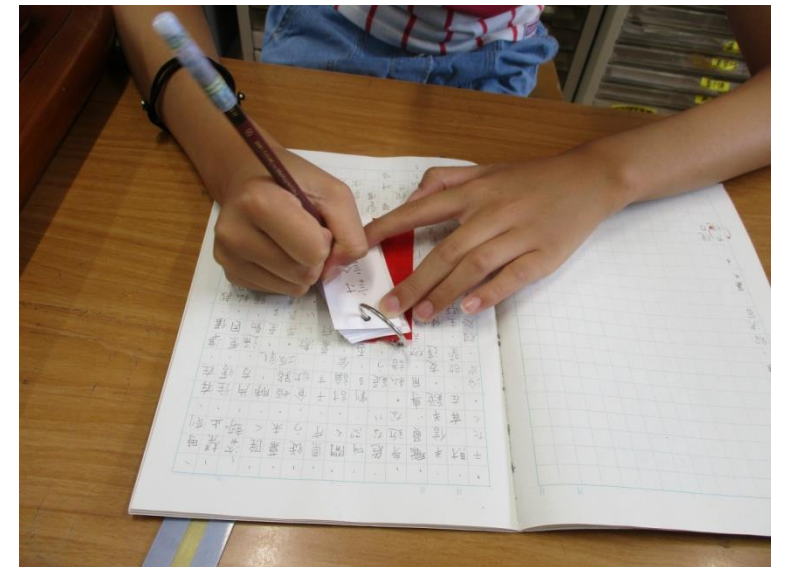
漢字が覚えられない

【児童の状況】

- ・書いても書いても漢字が覚えられない
- ・字を書くことにはあまり抵抗がない

【合理的配慮】

- ・カードに書いて、何回でも練習ができるようにする。
- ・漢字を思い出すことが苦手なので、思い出す練習をたくさん持つことによって、覚えられるようにする。
- ・自主学習では、自分のやり方をノートに書いて、なるべくそのとおりに毎日練習できるようにする。



言葉のまとまりが分からず、読みにくい

【児童の状況】

・言葉のまとまりが分からずに、たどたどしい読みになる。

漢字が分からずに詰まる。

【合理的配慮】

・言葉のまとまりを／で区切ると読みやすく、意味も分かりやすい。

・単元の初めに、読めない漢字は、ディジー教科書を使って、読み仮名を打つ。

ごんぎつね

新美南吉作 かすや昌宏絵

これは、わたしが小さいときに、村の茂平というおじいさんから聞いたお話です。

昔は、わたしたちの村の近くの中山という所に、小さなおしろがあつて、中山様というおどのお様がおられたそうです。

その中山から少しはなれた山の中に、「ごんぎつね」というきつねがいました。ごんは、ひとりぼっちのきつねで、しだのいっばいしげった森の中に、あなを

1 読んで考えたことを話し合おう

登場人物の行動や気持ちの変化をとらえ、感じたことや考えたことを話し合ひましょう。

鉛筆で書くことが苦手

【児童の状況】

- ・鉛筆の持ち方が悪く、へんに力が入り疲れる。
- ・縦線や横線が平行にならず、自分でも読みにくく、書くことを嫌がる。

【合理的配慮】

- ・鉛筆の正しい持ち方を習慣付けるために三角鉛筆や、補助具をつける。



割り算の筆算

【児童の状況】

- ・かけざんの手順が覚えられなくて、計算できない

【合理的配慮】

- ・計算の手順を書いたカードをいつも横に置きながら一つ一つ確認しながら計算する。



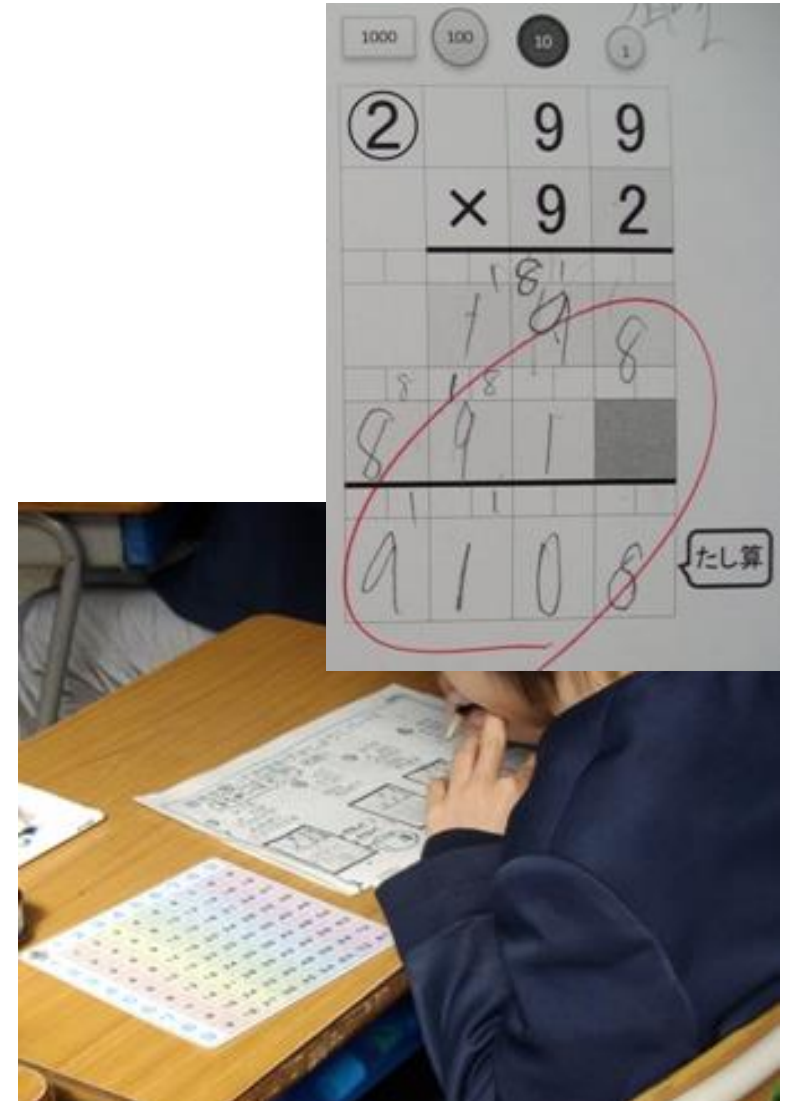
算数(かけ算筆算の学習)

【児童の状況】

- ① かけ算の筆算方法の学習において、九九の暗記が不十分なために、問題に取り組めない。
- ② ワーキングメモリーが弱く、繰り上がりの計算が暗算でできない。

【合理的配慮】

- ① 九九の暗記が不安なところについては九九表を見て確認できるようにする。
- ② 途中の九九や繰り上がりの数を書き込めるワークシートを使い、計算しやすくする。



気持ちの表現(感情カード)

【児童の状況】

感情を言葉で表現することが難しいために、泣いたり物を投げたりして感情を表出してしまう。

【合理的配慮】

気持ちカードを使って、自分の気持ちを表現できるようにする。



英語学習（聞き取りにくさを補う）

【児童の状況】

- ・難聴の中学生。補聴器を使っても発音の聞き取りが困難。

【合理的配慮】

- ・まだ聞き取りやすい小さな部屋で、教師とマンツーマンの授業。
- ・机の上に小型のホワイトボードを置き、筆談での要点確認。
- ・英語の放送テストは、プリントに文字化して出題。

知的障害を持つ生徒の学習環境づくり

【児童の状況】

- ・ダウン症の中学生。小学校低学年程度の知的な発達状況。明るく人なつっこい。

【合理的配慮】

- ・支援学級は複数の教室を使用しているが、本生徒には授業の教室を固定し、学習環境の変化が少ないようにしている。
- ・定期テストにおいて、全教科とも、本生徒用の別問題。また、声を出すため、全教科のテストを支援学級で受けている。

事態の変化に弱い生徒の環境を整える

【児童の状況】

- ・望ましくない事態、予期せぬ事態が起きると、精神の安定を欠き、落ち着いて考えたり行動したりできなくなる。

【合理的配慮】

- ・テスト返却時に、別室で、教師とマンツーマンで返却する。
- ・水泳の着替え(前の授業のクラスと次の授業のクラスが狭い空間に入り混じる)を支援学級で行う。

適切な大きさの声で話せるように

【児童の状況】

- ・場面に合わせ適切な声の大きさを話ることができない。

【合理的配慮】

- ・声の大きさが視覚的に分かる掲示物を学級に掲示しておく。
- ・ユニバーサルデザインの観点から普段の授業の中で活用し、場に合わせて練習する。



お道具箱の使い方

【児童の状況】

- ・口頭での指示が苦手。
- ・お道具箱の中がぐちゃぐちゃになり、整理整頓が苦手。

【合理的配慮】

- ・教室に掲示しておき、何をどこに直すとよいのか、視覚的に分かる。



おとまりのへや

おかえりのへや

おとまりのへや

靴箱の使い方

【児童の状況】

- ・上靴、下靴がよく散乱している。
- ・「靴をちゃんとなおしなさい。」と言われても、直し方がよく分からない。

【合理的配慮】

- ・靴箱に、右の絵を掲示しておく。
- ・聞き取りが苦手であったり、直し方を忘れてしまった子も視覚的に、どう直せばいいのか、よく分かる。



清掃用具の片付け方 1

【児童の状況】

・片付け方がよく分からず、掃除の後、用具が散乱している。

【合理的配慮】

・洗面所に、右の写真を掲示しておき、清掃用具の正しい直し方を視覚的に支援する。



清掃用具の片付け方 2

【児童の状況】

・トイレでは清掃に使用する用具が多いため、直し方が分からず、散乱した状態になる。

【合理的配慮】

・トイレの掃除道具箱のよく見えるところに、右の写真を掲示しておく。

・直し方のポイントも書いておき、毎回目にできるようにしておく。



- *ほうき→ひもをフックにかけましょう。床に直接置かないで。
- *からモップで使った布切れ→洗って干しておきましょう。
- *バケツの水→流しておきましょう。水をためておかないでね。

正しい姿勢

【児童の状況】

- ・姿勢の保持が苦手。
- ・正しい立ち方、座り方がよく分からない。

【合理的配慮】

- ・教室に掲示しておき、いつでも正しい姿勢の見本が分かるようにする。



きれいな学校であるために

【児童の状況】

・集めてきたごみをポリバケツに移し変えるときに
周りにごみをこぼしてしまう。

【合理的配慮】

・ごみをこぼしても、すぐに
清掃できるように、ゴミ箱の
近くに、ほうきとちりとりを用意
しておく。

